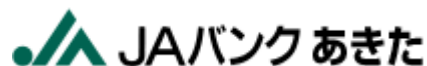


JAバンクあきたにおける 地域密着型金融の取組みについて (平成25年度)

平成27年2月
農林中央金庫秋田支店



JAバンクあきたにおける 地域密着型金融の取組状況(平成25年度)

- JAバンクあきた(秋田県下15JAと農林中央金庫秋田支店)では、農業と地域社会に貢献するため、平成25~27年度JAバンクあきた中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。
- 平成25年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

目次

- 1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援
（JAバンクあきたの農業メインバンク機能強化への取組み） ……P1
- 2 農業担い手の経営のライフサイクルに応じた支援 ……P12
- 3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、
農業担い手に適した資金供給手法の提供 ……P16
- 4 農山漁村等地域の情報集積を活用した
持続可能な農山漁村等地域育成への貢献 ……P20

1 農山漁村等地域の 活性化のための融資を始めとする支援 (JAバンクあきたの農業メインバンク機能強化への取組み)

JAバンクあきたは、地域における農業者との
結び付きを強化し、地域を活性化するため、次
の取組みを行っています。

農業融資商品の適切な提供・開発 ①

- JAバンクあきたは、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。
- 平成26年3月末時点のJAバンクあきたの農業関係資金残高^(注1)は48,615百万円(うち農業経営向け貸付金42,035百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金残高^(注2)は18,712百万円を取り扱っています。
- (注1)農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
- (注2)JAバンクあきたが農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

農業融資商品の適切な提供・開発 ②

【営農類型別農業資金残高】

単位 百万円

営農類型	平成26年3月末現在
農業	42,035
穀作	12,583
野菜・園芸	474
果樹・樹園農業	73
工芸作物	21
養豚・肉牛・酪農	2,802
その他農業(注1)	26,082
農業関連団体等(注2)	6,579
合計	48,615

(注1)「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

(注2)「農業関連団体等」には、JAや全農、それらの子会社等が含まれています。

* 合計値は端数調整しています。

農業融資商品の適切な提供・開発 ③

【資金種類別農業資金残高】 単位 百万円

種 類	平成26年3月末現在
プロパー資金(注1)	33,547
農業制度資金(注2)	15,068
農業近代化資金	4,626
その他制度資金(注3)	10,442
合 計	48,615

(注1)プロパー資金とはJAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

(注2)農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJAバンクあきたが低利で融資するもの、③日本政策金融公庫等が融資するものがあり、ここでは①③の転貸資金と②を対象としています。

(注3)その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

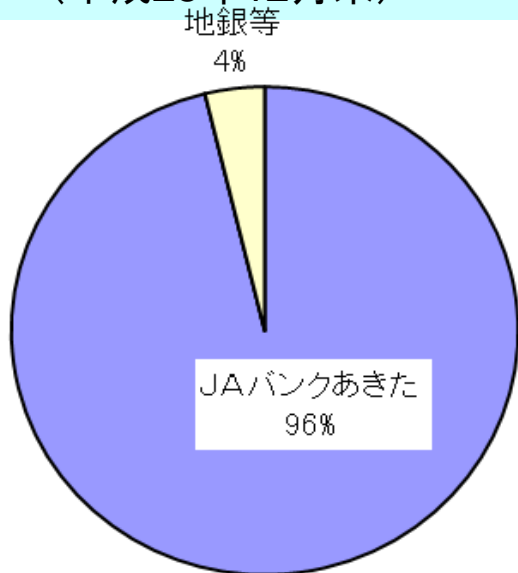
【農業資金の受託貸付金残高】 単位 百万円

種 類	平成26年3月末現在
日本政策金融公庫資金	18,694
そ の 他	18
合 計	18,712

(注) JAバンクあきたでは、主にはJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

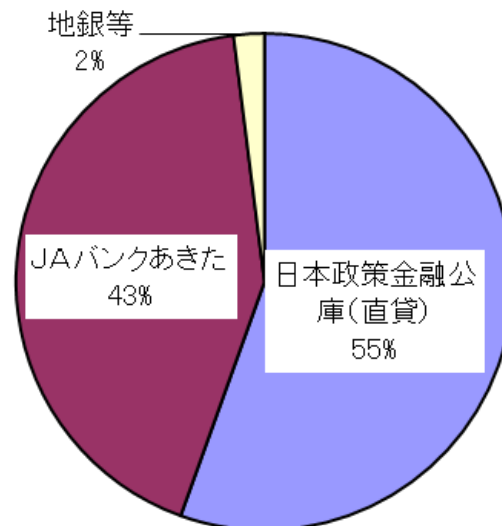
農業融資商品の適切な提供・開発 ④

農業近代化資金 融資残高シェア
(平成25年12月末)



平成25年12月末現在
出所:農林水産省

日本政策金融公庫 農業資金取扱残高シェア
(平成25年度)



平成26年3月末現在
出所:日本政策金融公庫 農林水産業「業務統計年報」
各行のディスクロージャー誌
注意:JAバンクあきたの残高には、JAが窓口となっている
公庫資金H方式の取扱いが含まれています。

JAバンクあきたは主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いにおいて高いシェアを占めています。

JAバンクあきたにおける地域密着型金融の取組みについて(平成25年度)

6次産業化に向けた取組み

- JAグループ秋田では、平成25年9月に「JAグループ秋田6次産業化促進協議会」を設置し、秋田県域における6次産業化の取組みにかかる情報共有・推進体制を整え、本県の6次産業化促進に向けた対応策を協議しております。
- JAバンクあきたでは、JA秋田中央会、JA全農あきた、JA共済連秋田などと連携し、JA・6次化ファンド（農林水産業協同組合ファンド）の枠組みなどを活用しつつ、6次産業化に取り組む事業者の経営面のサポートを行います。

6次産業化に向けた農商工連携の推進

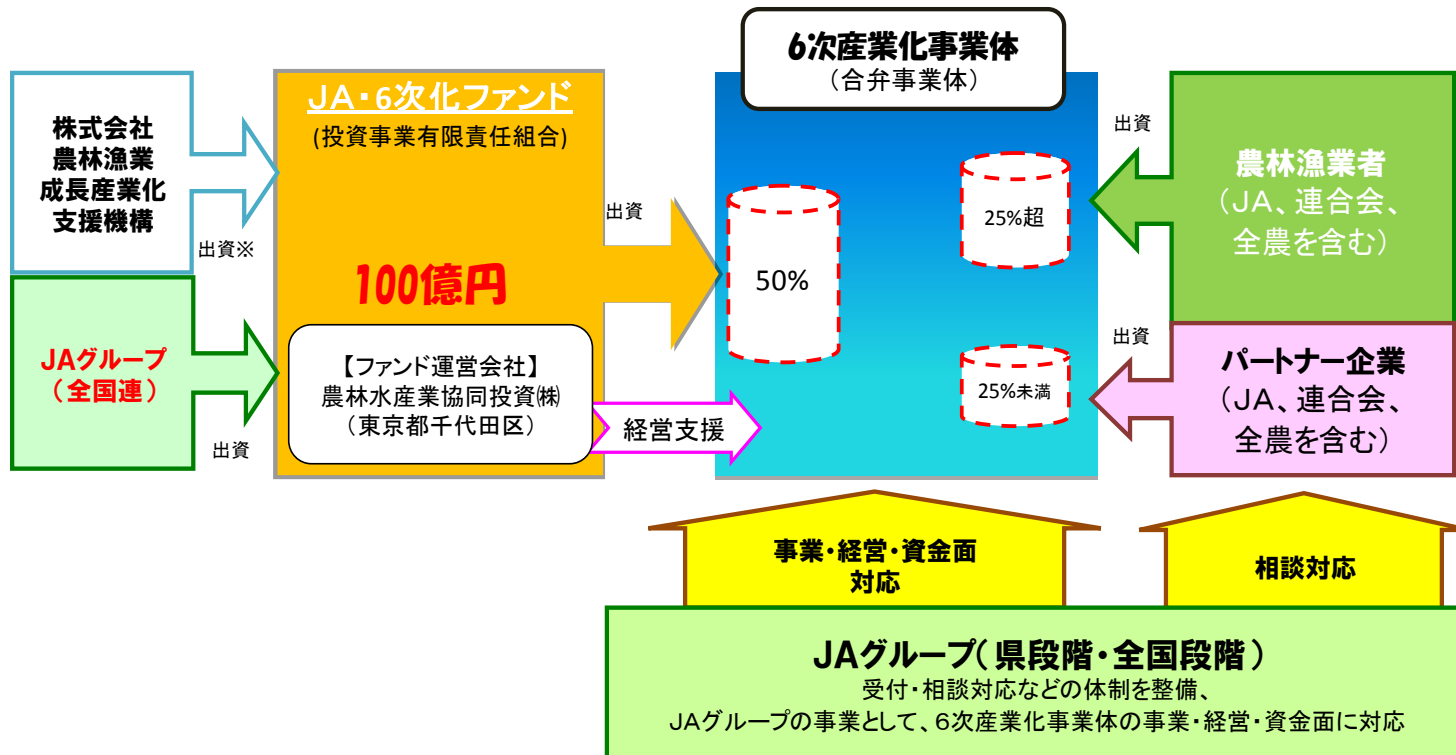
- JAバンクあきたでは、秋田県，JA全農あきた等と連携し，農業6次産業化に向けた農商工連携に取り組んでいます。

【25年度取組実績】

取組名称	参加者	参加数	主催者	内容
25年7月，10月 JAグループ秋田 ツアー形式商談会	JA，系統団体，小売り，外食チェーン等	セラー 3社 バイヤー 11社	JAグループ	東京都内のバイヤー数社と個別商談会を年2回実施し，商談成立に向け支援しました。
25年10月 JAグループ秋田 マatching商談会	JA，系統団体，農業法人，小売り等	セラー 14社 バイヤー 11社	JAグループ	のべ43商談実施し，成約1件，成約関連8件の計9件が順調に推移しています。
25年11月 秋田県・JAグループ 6次産業化応援セミナー	農業法人，JA，行政等	155名	秋田県 農林中央金庫	講演，事例発表，意見交換を通して，県内の6次産業化への取組みサポートを行いました。

JA・6次化ファンドの概要

「株式会社農林漁業成長産業化支援機構法」に基づく、6次産業化ファンドの取組みについては、「JA6次産業化促進対策に係る方針」に基づき、サブファンドとして「JA・6次化ファンド」(正式名称「農林水産業協同組合ファンド」)を組成しました。



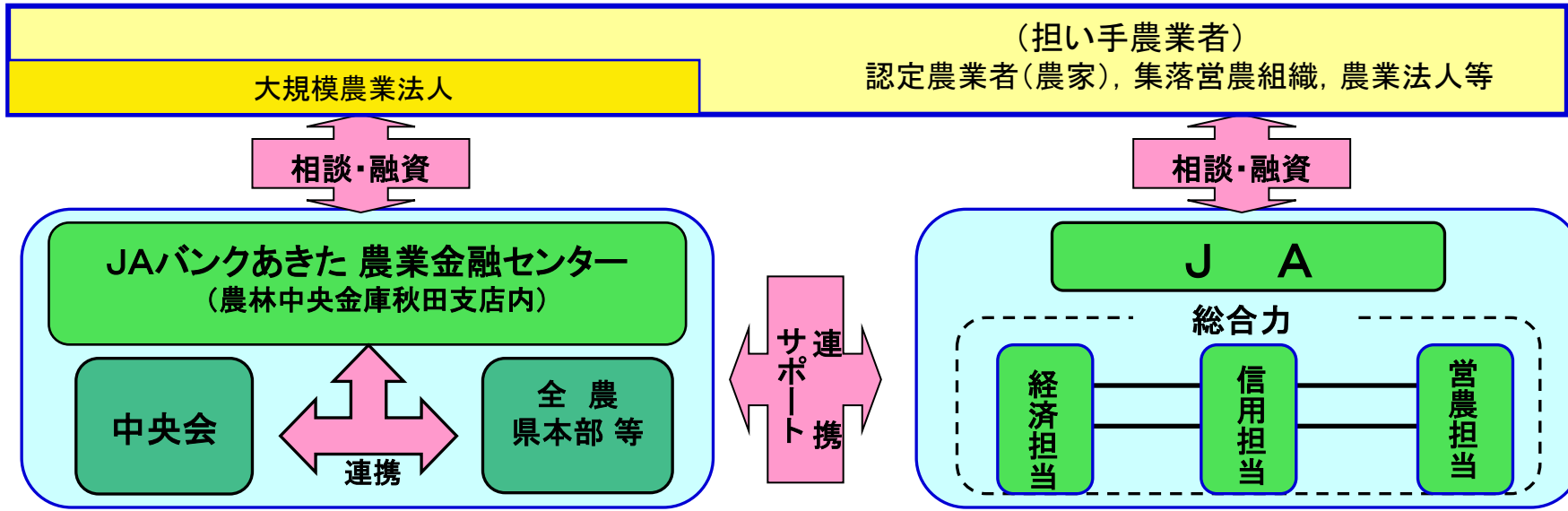
※上記はイメージ図です。情勢変化によって一部変更になることもあります。
※機構からの出資は、個別案件ごとに機構の支援決定を受ける必要があります。

農業担い手のニーズに応えるための体制整備

- JAでは、本支店の農業融資担当者が、営農・経済担当者がお聞きした情報も含めて把握して、農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。また、県内15JAの本支店には67人の「担い手金融リーダー」を設置し、農業融資担当者の活動をサポートしています。また、農業融資担当者等のスキルアップを目的とした「JAバンク農業金融プランナー」資格取得者は25年度までに56名誕生しました。
- 多様化する農業者のニーズに応えることにより、農業者の満足度を向上させることを目的に、農業メインバンクCS調査を実施しています。県域内の会議体で調査結果を共有するとともに、県域においてPDCAサイクルの確立のため、有効に活用しています。

農業メインバンク機能強化支援体制

- JAバンクあきたでは、大規模農業者・農業法人等の専門的なニーズへの対応やJA農業金融への取組みサポート機能の充実を図るため、農林中央金庫秋田支店内に「JAバンクあきた農業金融センター」を設置し、JAグループ秋田が一体となって、農業者への金融対応力の強化に取り組んでおります。



＜JAバンクあきた農業金融センターの主な機能＞

- ①JAサポート 農業金融推進企画, JA内事業間連携企画, 実践支援, JA相談対応
- ②相談・融資対応 農業法人等の大規模農業者からの金融・経営相談対応や融資対応 (JAの補完融資, 担い手金融リーダーを核とした対応力の向上)
- ③農商工連携 農業経営セミナーの開催, 農畜産物等の販売力強化等をサポートするため, 商談会等によるバイヤー, セラーのマッチング支援
- ④県域連携 県中央会をはじめ, 全農県本部, 全共連県本部, 県農業信用基金協会等との十分な連携・調整

JA内事業間連携の強化

- 農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

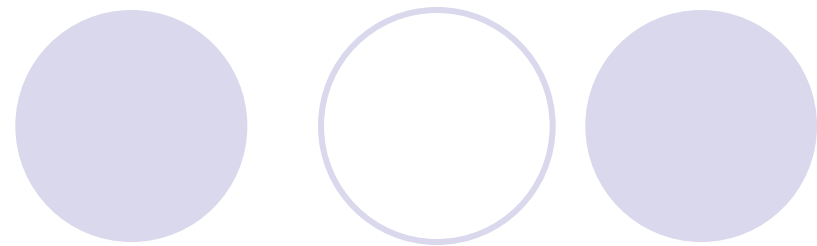
具体的取組事例

- ・JA秋田中央会，JA全農あきた，農林中央金庫秋田支店の共催による，担い手金融リーダー（信用事業職員）研修会を実施し，TACの活動等，他の事業部門における農業担い手対策や農業資金に関する知識を深め，農業者の多様なニーズに対応するための研修を行いました。
- ・農林中央金庫秋田支店は，JA全農あきたと合同でJAのTACミーティングに参加し，JAバンク生活メイン商品，農業関係資金の紹介を行い，営農経済，信用事業部門間の情報交換の重要性を認識共有しました。

2 農業担い手の経営の ライフサイクルに応じた支援

JAバンクあきたは、農業担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

新規就農者の支援



- JAバンクあきたでは、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金を取り扱っています。

【平成25年度新規就農者をサポートする資金の取扱実績】 単位 件・百万円

	実行件数	実行金額	平成26年3月末 残高
就農支援資金	52	45	142

経営不振農家の経営改善支援

【平成25年度の農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位:先数)

		期初経営改善 支援取組先 A	Aのうち再生 計画を策定し た先数 a	Aのうち期末 に債務者区分 がランクアップ した先数 b	Aのうち期末 に債務者区分 が変化しな かった先数 c	事業計画策定 率 = a / A	ランクアップ 率 = b / A
正常先①		1,569	7		1,305	0.4%	
要 注 意 先	うちその他要注意先②	290	21	38	202	7.2%	13.1%
	うち要管理先③	130	6	7	94	4.6%	5.4%
破綻懸念先④		121	0	5	98	0.0%	4.1%
実質破綻先⑤		123	0	2	102	0.0%	1.6%
破綻先⑥		25	1	2	20	4.0%	8.0%
小計(②～⑥の計)		689	28	54	516	4.1%	7.8%
合計		2,258	35	54	1,821	1.6%	2.4%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成25年3月末時点でのものです。

農業法人とのコミュニケーション強化

- 農林中央金庫秋田支店は、秋田県農業法人協会への加盟を契機に、地域農業の有力な農業担い手である農業法人経営者の皆様と活発に交流を深めています。
- 平成25年度は秋田県農業法人協会の定例会にて、農業資金やファンド活用の紹介を行うなど積極的な交流・情報交換を行いました。

3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、 農業担い手に適した資金供給手法の提供

JAバンクあきたでは、農業担い手の
経営実態やニーズに適した資金の
提供に努めています。

負債整理資金による軽減支援

- JAバンクあきたでは、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成25年度 負債整理資金貸出実績】

単位 件・百万円

資金名	新規実行件数	新規実行金額	平成26年3月末残高
農業経営負担軽減支援資金 ^(注1)	7	83	2,073
畜産特別資金 ^(注2)	0	0	771
その他	187	449	7,066
合計	194	532	9,910

- (注1) 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。
- (注2) 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

動産担保融資の活用

- JAバンクあきたでは、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っております。
- 秋田県における融資の実績は次表のとおりです。

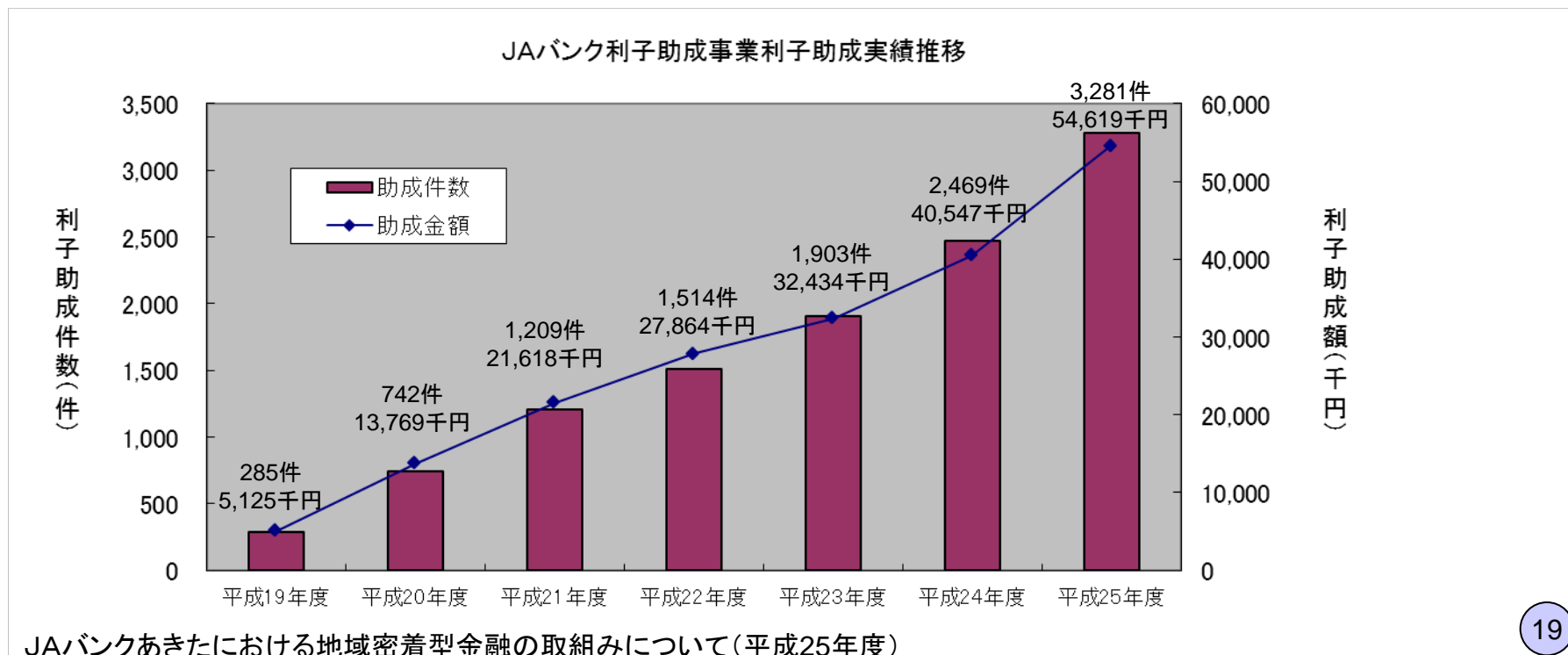
【平成25年度動産担保融資実績】

単位 件・百万円

種 類	件数	残高
畜産物	9	60

農業融資への利子助成の実施

- JAバンクあきたでは、農業者に対する農機ハウスローン、アグリマイティー資金、農業近代化資金等の融資について、JAバンクアグリ・エコサポート基金から最大1%の利子助成を行いました。



4 農山漁村等地域の情報集積を活用した 持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンクあきたでは、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

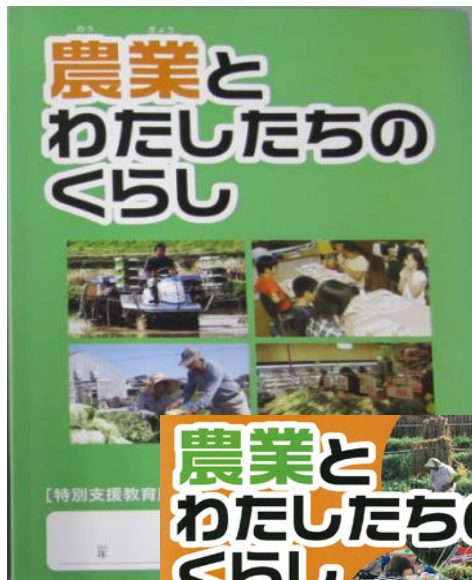
災害被災者への支援

- JAバンクあきたでは、被災者等を支援するため、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

単位 件・百万円

取組事例	JA名	内容	実行件数	実行金額
果樹産地再生支援資金	県下15JA	平成22年度の豪雪により被害を受けた果樹産地を支援するために創設された支援資金に対して、秋田県JAグループとして利子補給を行いました。	77	251
各JAの支援資金	県下15JA	各JAにて独自の支援資金を創設し、市町村と連携した無利子資金、異常気象対策資金、戸別所得補償制度にかかるつなぎ資金等に対応しました。	11	11
合計			88	262

JAバンク食農教育応援事業の展開



- JAバンクあきたは、子どもたちが、食料を生産する「農」の役割や重要性、自然・社会環境と「農」のつながり等について学び、農業に対する理解を深めていただけるよう、食農教育を中心とする教育活動を行っています。
- JAバンクあきたを通じて、教材「農業とわたしたちの暮らし」を、県下小学校224校の小学5年生へ、約1万セットを無償配布し、学校の授業等で活用されています。また、特別支援教育版を希望する特別支援学校(学級)にも配布し、活用されています。

JAバンク食農教育応援事業による活動内容①

- 県下15JAにおいても、食農教育などの実践に取り組んでおり、一部を下表のとおり紹介します。

【JAバンク食農教育応援事業による主な活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JAかづの	子供達の食農教育	地元の子ども達に農業体験を通じて農業に関心を持ってもらうために、学校農園に種苗供給を行いました。
JAあきた北	ちゃぐりん農園	地元小学生・園児を対象とした農業体験等(リンゴ収穫, ミニトマト, ジャガイモ栽培等)を行いました。
JA鷹巣町	農業体験学習活動	営農指導員の指導によるサツマイモの栽培, チューリップの球根植えを通じ、食・環境の大切さを学びました。
JAあきた北央	しいたけ栽培・収穫体験	しいたけと生産資源リサイクルの理解を深めるため、児童を対象に菌床しいたけの栽培・収穫体験を行いました。
JAあきた白神	児童の畑作体験学習	播種や苗の定植, 生育観察, 収穫体験, 活動記録発表会および食についての意見交換会を実践しました。
JA秋田やまもと	伝統料理実習	JAの伝統料理名人の指導による管内の小中学生を対象に、きりたんぼ作り等の伝統料理実習を行いました。

JAバンク食農教育応援事業による活動内容②

JA名	活動名	活動内容
JAあきた湖東	湖東の恵み収穫体験ツアー	枝豆, とうもろこし等の定植を通じた食育勉強会を行いました。
JA秋田みなみ	男鹿春日井児童交流学習会	愛知県春日井市の児童が男鹿市を訪れ, 農業体験学習や地引き網体験などを行いました。
JA新あきた	インターネットには載っていないおばあちゃんの味(技)教えます	市内小学生を対象に, 農業体験, 地産地消の調理実習(大豆を使つての豆腐づくり)を行いました。
JA大潟村	秋田市中心卸売市場見学	小学生を対象に, 秋田市中心卸売市場を見学し, 農産物市場の仕組みや役割について学習しました。
JA秋田しんせい	JAあぐりスクール	小学生を対象に, 作物の種まきから収穫までの農業体験や調理実習, 農場見学を行いました。
JA秋田おばこ	おばこあぐりスクール	管内の小学生を対象に, 農業体験や料理体験, 生き物調査を行いました。
JA秋田ふるさと	ふるさと農業体験	横手市内小学生親子を対象とした田植えと稲刈りの農業体験を行いました。
JAこまち	親子食育教室	親子を対象に地場農産物を活用した簡単料理教室を開催しました。
JAうご	ちょきんぎょイラストコンクール	管内の小学生を対象とした学校農園体験のイラストコンクールを開催しました。